

徹底した5Sで社風を変える

神奈川県
新納 政光



の片付け方を見て、今まで自分がやっていた掃除とは全然違うと愕然としました。

同年9月沖縄フェンスクリーンプロジェクトに参加。基地反対派が普天間基地のフェンスに大量のテープを貼り、街を汚していました。「日本を美しくする会」のメンバーなど六十数人が、テープを剥がし側溝のゴミを片付けました。そのときに鍵山相談役と出逢い、そのお考えに深く感銘を受け、掃除なら自分にもできる、掃除により社風を変えたいと心を決めました。

私は、横浜市で建設機械販売などのレンタル業を経営しています。1983年の創業です。2014年4月、神奈川県大和市の「大和掃除に学ぶ会」で徹底した掃除のやり方や掃除道具

を受けました。

2017年、不退転の決意で「5S」活動を始めました。社員は仕方なく参加していましたが、次第に「あつ」という間に時間が過ぎて乐しかった」「連携が大事だと痛感した」などの意見が出るようになり、会社の風通しがよくなつてきました。

掃除を徹底してやり出してから、未回収やクレームなどがなくなり、お客様が事務所前で「靴のまま上がつていいでしようか」と聞くようになるほど見違え、客層も変わつてきております。

事業継承にも、人材育成が急務です。普通の人が普通の仕事をして成り立つ会社にしたい。その具体策として、5S活動に徹底的に取り組んでいきます。

私は、横浜市で建設機械販売などのレンタル業を経営しています。1983年の創業です。2014年4月、神奈川県大和市の「大和掃除に学ぶ会」で徹底した掃除のやり方や掃除道具

大分掃除に学ぶ会の歩み

大分県 矢野 雅則



大分掃除に学ぶ会は、1999年3月、異業種仲間との平和市民公園でのトイレ掃除で発足しました。その後街頭清掃を加えて活動した、四半世紀の歩みを振り返ります。

私は創業時からローヤル様にお世話になり、鍵山社長様から「事

業は経営者の心の持ち方が大切」

だと学びました。東京ローヤル本社での周辺の清掃活動やトイレ研修を見学して感銘を受け、風土活性化と社員育成のために、自社にも清掃活動を取り入れました。

大分県大会のことです。北九

州、田川飯塚掃除に学ぶ会などの支援を頂いて、2009年に第1回大分県大会を開催し、大分市立坂ノ市中学校で生徒など計201名が参加しました。現在までに10回を数えます。このころ、県内の玖珠、中津、日田にも掃除に学ぶ会の輪が拡がりました。

次に、街頭清掃のことです。2010年「街をきれいに」をテーマに、地元の企業有志と大分駅前の街頭清掃を始めました。毎月第2

生、社会人が参加しています。

2019年には、地元の企業様とJR豊後竹田駅のトイレ清掃を行いました。さすが郷土愛で熱心に徹底して取り組まれ、見事に仕上がありました。

2020年の街頭清掃15年・

トイレ清掃200回記念では、高校サッカー部の女子生徒と、神社清掃を6回に分けて行いました。

皆さまの笑顔から、達成感とともに、手を加えれば物の価値が芽生えることを感じられたことが伝わってきて、感動しました。

社内では、社員さんの心の持ち方も変わり、日々の仕事に活用してくれたようです。日本を美しくする会のお陰で、大分でも実践を続けます。

菩薩様のような

鍵山秀三郎先生

福岡県

矢加部
やかべ

尚武
なおたけ



いるんだ」と大変感動し、一遍に魅了されてしまいました。

講演会のあと、桑野照史市長と友人の武久和生氏らによる鍵山先生を囲む食事会に入れてもらいました。そのとき、桑野市長が鍵山先生に謝礼を渡そうとするのですが、どうしても受け取られません。挙げ句、先生は「掃除に学ぶ会の設立資金にしてください」と言されました。

先生は静かに食事されていましたが、誰よりもオーラがありました。

した。同年、武久氏初代会長による「筑後八女掃除に学ぶ会」が発足します。私は2019年、そのバトンを引き継ぎました。

翌朝、私はもう一度鍵山先生にお会いしたいと、矢も楯もたまらず武久氏の会社に行きました。

鍵山先生とお会いすると、何も言わずに涙がぽろぽろと湧き出でしました。菩薩様にお会いしたような不思議な感覚でした。私がひとしきり泣いている間もその後も、鍵山先生は何もお話しにならず、ただじっと私を見守っていました。

私は大きな菩薩様に抱かれているような気持になり、その後何もなかつたかのよう普通にご挨拶し、一緒に筑後小学校の掃除の実習に行きました。

鍵山先生は、どこにいるのかわからないくらい黙々と便所掃除をされていました。威圧感もやつての感もなく、清掃されていました。大変たいへん大きな方だと、また感動いたしました。

そうじ

神奈川県

横田

南嶺



除が如何に大切であるか、人が生きるということは、その環境から如何に大きな影響を受けるか、心をきれいにするにはまず掃除からだと、一所懸命に書いて担任の先生に提出しました。

担任の先生は、じつと私の作文を読んで、笑いをこらえきれないようありました。私は

いつたい何がおかしいのかわからりませんでした。先生は、もうおかげで、たまらないという様子で、「掃除の作文ではないよ、こんどの卒業式に卒業生を送る送辞の作文を書いて欲しいと頼んだのですよ」と言されました。

在校生を代表して送辞を読むということだったのです。当

私は、そのころ生徒が登校する前に、学校の廊下などの掃除を日課にしていましたので、掃

した。

出家して禅宗の僧侶になつてからというもの、掃除は朝起きて顔を洗うように日課となりました。それは今も続いています。ただ、あまりにも日常になりますと、つい惰性になつてしまふと、ついないかということを反省します。

鍵山秀三郎先生とのご縁をいただいて、なお一層掃除の大切を肝に銘じています。掃除は日々新たに、常に新鮮な気持ちで、少しでもきれいにしよう、みんな気持ちを爽やかにしてあげようと願う気持ちを持つていなければならぬと自ら言い聞かせています。

トイレ掃除に恋して25年

山口県 松村 久
まつむら ひさし



ため、中小企業の社長に声掛けして、翌月から14、5人で始めたのが、下関掃除に学ぶ会です。

当時魚市場に勤務していましたが、ゴミやタバコの吸殻が散らかり、とても汚い状態でした。

1年後、「日本一のフグ市場を

日本一きれいに」のスローガンを掲げ、社員と清掃を始めました。3年過ぎるころには、かなりきれいになりました。

あるとき、社員に「相談役が市場見学にお出でになる」と伝えると、彼らは私に恥をかかせないよううにと思ってか、トイレ掃除をしてくれたのは、本当に嬉しく思いました。

1997年宇部市の友人が開催した掃除の会に、下関市から私たち3～4人が手伝いに行きました。それがとても心地よかつた

街頭清掃が一本柱です。

トイレ掃除は月一回行います。

街頭清掃は、2018年から

新下関駅、下関駅、長府駅、東駅（バス停）、山の田の5か所を、15

日と30日の月2日、朝6時半から1時間清掃しています。

各自自分の行きやすい場所に参加します。山の田は郵便局の方を含む15人くらいで花を植えたり、東駅では2～3人です。

街頭清掃は、地域の人々が自分の街に愛着を持つ、意義ある活動だと思います。ラインで互いに報告すると、やる気も出ます。

高齢化するなか、掃除の意義や楽しさを伝えるためには、若返りやI.T.のできる人をつくることなどが必要だと考えています。

(751) 0832 山口県下関市生野町2-18-6)

人生の根底を変える掃除

東京都 千種 敏夫 ちくさ としお



な自分だ」と思っていました。

そんな人生を変える大きな衝撃を受けたのが、1993年2月の鍵山掃除道のトイレ掃除です。「なんでトイレ掃除?」の興味から始まりましたが、瞬く間に全国の大会に参加する自分がおり、

体験すればするほど、きれいになる便器とともに、心の中の清々しさや気持ちよさを味わう不思議さを感じていました。

自分ではわかりませんが、いつしか家族や友達から「お前、変わったな」と言われるようになります。掃除を積み重ねることで自己中心な人間だったかと思います。タバコのポイ捨て、ビンや缶の投げ捨ても平気で行っていました。仕事ではスポーツカーに乗つてカッコつけ、「これが自然

喜ぶこと、相手の立場に立つて行動をするようになれたのは自分でも驚きました。今までにない宝を得たように思えます。これが掃除のすごさ! 「たかが掃除、されど掃除」ではと思います。

掃除をすることで、その周りがきれいになる。その気持ちよさは誰もが好きと認めるところ。好きな気持ちの積み重なりは、心の改善につながり、荒んだ心を穏やかにしてくれます。

掃除は、いくらやつても奥深く、「継続は力なり」となる。だから、続けたくなるのかも。社会や世界を変える素晴らしいツールだと思います。過去の自分が今自分の自分に変わったかのよう…。また少し成長できたのだろうか。

さらに自己中心から、相手のことを思うようになり、相手が

一番磨かれたのは、 「自分自身」だった

長野県

太田

智明



ういう先生でなきや」とか、そして別れ際には、「太田さんが長野で頑張っているなら、俺も頑張るよ」などと、何人の方から激励されたのです。たった一日、偶然同じ班で一緒に掃除しただけで、もう二度と会うことはないかも知れないのに、何人の方が旧知の仲であるかのように固く握手をして、本気で応援してくださったことが、本当に嬉しかったのです。

長野の冬は特に厳しく、寒い雪の朝もあります。「今日一日くらいやらなくてもいいか」と思つたことは、正直何度もありました。でも、直接会えないけれど「太田は今日も頑張っているはず」と信じている方が、この山の向こうに大勢いる。それを裏切るわけにはいかない、と私は思つた

根気のない私が、なぜここまでお掃除を続けられる人になつたのか。
それはまだ小布施にお掃除の会がなかつたころのことです。私が県外のお掃除に参加すると、「長野から一人で来たの?」と驚かれ、「えっ? 先生なの? これからはこ

のです。だから私も「〇〇さんは今日も頑張っているはず」と信じて、続けてくることができたのです。こうした同志の皆さまとのご縁が、どれほど私を励まし、そして成長させてくれたことでしょう。

このことが、のちに「長野便教会」の発足(2006年)や、県内中学校の清掃活動における横断的な取り組みである「長野県中学校清掃サミット」の開催(2008年)につながっていきました。

こうしてこれまでの歩みをふり返ると、一番磨かれたのは便器でも床でもなく、「自分自身」だったのです。皆さまのお陰です。厚くお礼申し上げます。

私の掃除は「一刀流」

大阪府

小南

昭雄



紅葉の時期で落ち葉が多く、掃除をしたそばから葉っぱが落ちてくる有様で、私は内心「今掃除をする必要があるのかな」と思つていると、相談役が「掃いた後に落ちてくる落ち葉は綺麗でしよう」と言われ、目から鱗が落ちる思いがしました。掃く前に落ちていた落ち葉と、掃いた後に落ちてくる落ち葉では、雲泥の差があり、「掃除は心を磨いている」と話を教えてされました。それまでも掃除はしていましたが、この出来事で私の掃除に対する意識が変わりました。

私が初めて鍵山相談役にお会いしたのは、1996年、箱根にあるイエローハットの保養所で開催された志ネットワークの会合でした。翌朝小雨が降る中、保養所付近の掃き掃除をしました。

2016年、「大阪掃除に学ぶ会」で、代表下正晴さんに「タニサケ塾」を紹介いただき参加しました。松岡会長から「他者を中心の生き方が大事ですよ」と教えてい

ただき、その翌月から一人掃除に学ぶ会(月1回)を立ち上げ、今年で6年目を迎えます。

「一人掃除に学ぶ会」では、自宅近くの小学生の通学路が、雑草やフェンスから伸びてくる蔓(つた)で汚く狭くなるため、「気持ち良く通学して欲しい」と思いながら掃除をしています。「こんなことをして意味があるのかな」と思つたこともありますが、鍵山相談役からお聴きした「益はなくとも意味はある」の言葉や、通りすがりの方からの「ご苦労様です」の声に勇氣づけられて、今日まで実践してきました。

「大阪掃除に学ぶ会」と「一人掃除に学ぶ会」の「一刀流」を、分に応じて続けたいと思います。